



「見たり、聞いたり、探ったり」No.251

通算 No.403

青木行雄

時代を見つめて アメリカ新大統領、就任式 第46代大統領、ジョー・バイデン氏(2021年1月20日)

ジョー・バイデン元米副大統領(78才)が米東部時間1月20日正午(日本時間21日午前2時)ワシントンの連邦議会議事堂前の就任式会場で宣誓し、第46代大統領に就任した。

バイデン氏は就任演説で、全ての米国人のための大統領になる。私を支持してくれた人達と同様に支持してくれなかった人達にも一生懸命がんばるといい、分断された米社会の結束を訴え、呼びかけた。

副大統領にはカリフォルニア州選出の上院議員だったカマラ・ハリス氏(56)が女性、アジア系、アフリカ系で初めて就任した。

バイデン氏の宣誓は、連邦最高裁のロバーツ長官が立ち会って行なわれた。

バイデン氏は、妻のジル氏が持つ、バイデン家に128年伝わる聖書の上に手を置き、宣誓の言葉を述べた。クリントン、ブッシュ(子)、オバマの歴代3大統領夫妻が見守った。トランプ前大統領は欠席した。現職大統領が後任の就任式を欠席したのは、南北戦争後の1869年(明治2)ジョンソン大統領以来、152年ぶりといわれる。

宣誓後、バイデン氏は議事堂の西側バルコニーで演説した。議事堂は今日6日、トランプ氏の支持者達に襲撃され占拠され、かなりの損傷の被害があり、全米に衝撃を与えたばかりであった。

バイデン氏は演説冒頭で「民主主義は貴重で、もろいと学んだ。しかし、民主主義は勝ったのだ」と強調した。

バイデン氏はそのうえで、全米で40万人以上の人が亡くなった新型コロナウイルスや、白人至上主義や過激主義の台頭を挙げて、「我が国の歴史で、我々ほど困難に直面した人達は少ない、これらの困難を克服し、魂を修復し、将来の米国を確かにするには言葉以上のものが必要である、私の全霊を、米国人をまとめ、結束させ、国を一つにすることに捧げる。全ての米国人も参加して欲しい」と訴え、呼びかけた。

議事堂襲撃事件を受けて、この日、ワシントン



2021年1月20日、連邦議事堂前にて就任演説をするジョー・バイデン大統領

には州兵約2万5千人を配備、中心部はフェンスで区切られて立ち入りが制限され、式典の出席者は数千人ほどだったという。

議事堂からワシントン記念塔まで広がる緑地帯「ナショナルモール」は、従来の大統領就任式では数十万人規模の聴衆で埋まるのだが、今回は米国旗や各州・自治領旗を約20万本設置しての就任式となった。

新型コロナウイルス真只中の就任式、特にアメリカのコロナ感染者数1月22日現在2,463万1,890人死者41万0349人、世界一の多人数である。そんな最悪の就任式に宣誓したバイデン氏であった。



1月20日就任式後すぐにホワイトハウスで大統領令に署名するバイデン氏

就任式を終えて、ホワイトハウスに入った20日夕刻、さっそく執務室で15項目の大統領令などに署名した。

新型コロナウイルスの感染拡大を抑えるためのマスク着用義務化や、トランプ前政権が脱退した地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」への復帰手続きを進め、路線転換を打ち出した。バイデン氏は「待っている時間はない」とすぐに執務に取りかかった。

大統領令は、議会の同意なしに大統領としての権限を発動することが出来る。バイデン氏は新型コロナ対策、経済回復策、地域温暖化・環境、移民・多様性など、政権の重点政策と重なる4分野で大統領令を準備、コロナ対策や環境保護を軽視し、国際協調に背を向けてきたトランプ政権の政策を次々と修復されるようである。

バイデン大統領が1月20日就任式の後、4時過ぎから、ホワイトハウスで大統領令に署名した15項目は次の通りである。

※「新型コロナウイルス対策」

- ① 100日間のマスク着用を要請。連邦政府の施設内でマスク着用や他人と一定の距離の確保を義務付ける。
- ② 世界保健機関 (WHO) から脱退手続きの停止。
- ③ ワクチン接種促進へ大統領直轄の新型コロナ対策調整官を設置する。

※「環境」

- ④ 地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」への復帰。
- ⑤ カナダで採掘した原油を米国へ運ぶパイプライン建設許可取り消し。

※「人種」

- ⑥ 奴隷制の歴史をゆがめたとの批判があるトランプ前大統領による歴史教育見直しのための諮問機関を解体。
- ⑦ 性的指向やジェンダーに基づく職場での差別防止を強化。

※「移民」

- ⑧ 国勢調査で不法移民も対象に。
- ⑨ 幼少時に親に連れられ米国に不法入国した若者らの強制送還猶予措置の強化。
- ⑩ イスラム圏などからの入国規制の撤回。
- ⑪ 不法移民取り締まり強化策の撤回。
- ⑫ 米南部のメキシコ国境沿いの「壁」建設中止。
- ⑬ 西アフリカのリベリア国民に対する強制退去の猶予措置を延長。

※「その他」

- ⑭ 連邦政府高官による職務倫理誓約書への署名の義務化等。
- ⑮ トランプ前政権による規制措置の見直し。

以上15項目等、署名した後、祝賀コンサートへ。

※ 米大統領就任式のきまり

米大統領の就任式では、宣誓時に聖書を用いるのが慣例になっているという。

歴代大統領は右手を揚げつつ左手を聖書に置き、「神に誓って (So help me God)」と宣誓する。米メディアによると、バイデン大統領はバイデン家で引き継がれてきた聖書を宣誓に用いた。2009年の副大統領就任時にも同じ聖書を使ったという。前トランプ大統領就任の時はリンカーン大統領が19世紀に使った聖書を使ったといわれる。

宣誓時に聖書を用いる慣例は初代大統領のジョージ・ワシントンから始まったという。過去には例外もあり、マッキンリー大統領の暗殺により1901年(明治34)に副大統領から昇格したセオドア・ルーズベルト大統領は聖書を用いずに宣誓した事があると記されていた。

1月20日という就任式の日程は時代を経て変遷してきた。ジョージ・ワシントン初代大統領の就任日は1789年(寛政元)4月30日であった。

その後議会が就任式の日程を3月4日に定めた。前年の11月上旬の大統領選から就任式まで4か月程度期間を空けることで集票作業など各種準備の時間や首都への移動時間を確保する目的が背景にあった。そ

の後は技術発展に伴い、準備や移動に要する時間の短縮が進んでいったという。

1929年(昭和4)からの世界大恐慌で新大統領が早急に政策を打ち出す必要に迫られた。そこで1933年(昭和8)に議会在憲法改正し、就任式の日程を選挙から約2か月後の1月20日に定めたのち現在に至っているとのことである。

こんな事から今回も1月20日に就任式が実行されたが、バイデン新大統領にとっては、いろいろ緊急事態の中、就任までの日数が長く数百倍にも感じたのではと思われる。

バイデン氏、当日1月20日のドキュメント。

2021年

1月20日朝 トランプ氏ホワイトハウス離れる(当日の朝なんとぎりぎりではないか)

9時頃 バイデン氏、ワシントンの教会で礼拝

正午 大統領就任を宣誓

第46代大統領に就任

広場にて就任演説

後「ナショナルモール」を歩いて移動

午後2時過ぎ アーリントン国立墓地で無名戦士の墓に献花

午後3時45分頃 ホワイトハウス入り

※ 午後5時20分頃 新型コロナなどの大統領令に署名

夜 舞踏会に代わる、祝賀コンサート(テレビ放送)

就任式当日のバイデン大統領、他のファッションについて記してみると。

バイデン大統領は米大御所デザイナー、ラルフ・ローレンの紺色のスーツとテーラードコートを着用。ネクタイは明るいブルー。正統的で上品で、オーソドックスなデザインであった。またファーストレディーとなる奥様のジル氏は米新進ブランド、マルカリアンによるオーシャンブルーのツイードのドレスとコー



大統領就任式の行なわれた連邦議事堂前



就任式で移動する、パトカーと乗用車



連邦議事堂前の広場と参加者、前大統領就任式の時はこの広場にも数十万人が集ったという



ガードマンの同行で移動する乗用車
就任式参加の同行車



徒歩で移動するバイデン大統領とジル夫人



連邦議事堂前広場におかれた20万本程の国旗や自治領旗である

トであった。また、初の女性で黒人・アジア系として注目されるカマラ・ハリス副大統領は深いパープルのコートとドレス。手掛けたのは米国の黒人デザイナー、クリストファー・ジョン・ロジャーズとセルジオ・ハドソンの2人という。就任式での女性のファッションは政治姿勢や価値観、民意を反映するとして大変注目されて来たようである。

1月20日の就任式では人気歌手のレディー・ガガさんがアメリカ国歌を独唱した。ガガさんはバイデン氏を支持することを公言しており、選挙戦の最中も応援している。就任式では平和を象徴する金色のハトの装飾品を着用して歌った。

20日の夜には恒例の舞踏会の代わりにバイデン大統領とハリス副大統領の就任を祝う特別テレビ番組「セレブレーション・アメリカ」が放映された。

司会は大統領選挙でバイデン氏の資金調達に尽力したことで知られる俳優のトム・ハンクスさんが務め



レディー・ガガさん、就任式でアメリカの国歌を独唱した。そして、祝賀コンサートでも熱唱した

た。米歌手のジョン・ボン・ジョヴィさんやジョン・レジェンドさんらも出演、祝意を示した。

就任式で詩を朗読したアマンダ・ゴーマン (22) さん。

詩のタイトルは「私たちが登る丘」

この就任式のためにつづった詩で就任式に出席した詩人としては最年少だという。

「日が始まる時、私たちは自問する。終わらない影の中、どこに光を見つけられるか」

「私たちは沈黙が必ずしも平和ではないと学んだ。正しいとは何かという規範や観念が、必ずしも正義とは限らない」

「国は壊れてはいない。ただ、未完なだけだ」「奴隷の子孫で、母子家庭で育った、やせた黒人の女の子が大統領を夢見ることができ、その一人のために朗読をする」

「未来を最優先に、亀裂を閉じる」

「慈悲と威力、威力と正義を一つにすれば、愛が私たちのレガシーとなる」

「光は常にある。それを見つめるだけの勇気さえあれば」

この就任式に出席し、この詩に感動したオバマ元大統領は「歴史に残る日に、アマンダ・ゴーマンさんがその場にふさわしいこの詩を届けてくれた。彼女のような若者が『光は常にある。それを見つめるだけの勇気さえあれば』は光の証しである」と絶賛されたという。

又、深刻な分断を乗り越えようとつづった内容が、多くの市民の胸を打ったようである。

アメリカの結末を呼びかけるバイデン氏が晴れの舞台でアマンダ・ゴーマンさんのような進々の若手詩人を招いた理由もわかるような気もする。

そして、感染者・死者数共にずばぬけて多いアメリカが、世界を掌握するためにどんな政策を取るのか、バイデン大統領への期待は大きい。

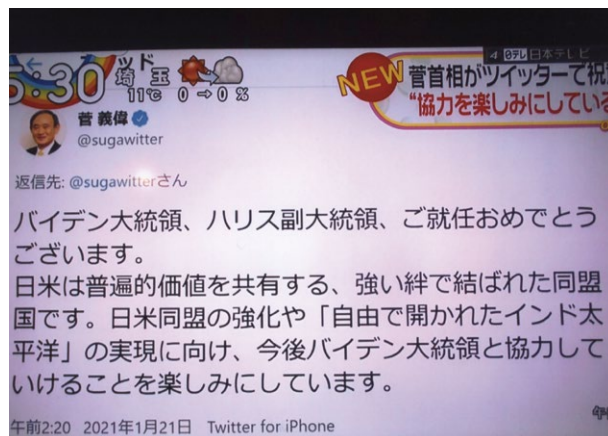
参考資料

日経新聞

朝日新聞

NHK テレビ

日本史年表岩波書店



日本の菅首相がツイッターで祝意をつたえた内容である

令和3年1月24日記